

飛瀬 稔 議員



一期4年の最終年度、当初における村政運営への所見を問う

Q 合併直後の選挙で村長と議員が決まって3年が経過、任期最終年度いわゆる仕上げの年頭に当たり所信を表明されたい。

A **村長** 3村の合併時の約束事を最大限守りながら、私の信条でもある「和」を基本に對話の村政を目指してきた。

今後も、住民負担を増やすことなく、住民サービスの質を落とさず運営することを念頭に乗り切つて

まいりたい。

Q 村長は、和を基本とした村づくりに留意した上で行政サービスの向上に布石を打ってきたと言われたが、それと共にやはり財政に対する強い意識を持って取り組まなければ夕張市や長洲町のように厳しい現実が待ち受けていると思う。今の考えは。

A **村長** 村民と協同一致して知恵を出し合うことが地域を存続させ、また発展させる有効な手法の時代といわれている。村民生活を第一に、更に一歩踏み出した對話を深めて邁進してまいりたい。

Q 具体的な経費節約の一つとして今回、特別職の報酬を削ったことも努力の現れである。しかし、予算全体から見ればわずかであり、大きな事業

やハコ物、庁舎問題等々充分に考慮して進めなければ、大きな出費の方に無駄が生じればそれらの効果は薄いものとなる。その点については。

A **村長** 財政状況を悪化させないことを主眼とした守りの予算編成になっている。歳出の徹底的な見直し、事業の選択重点化により経費節減に相当の努力をしている。しかし、予想を上回る社会情勢の変化によりなお一層、厳格な財政運営を強いられることと考える。

※村政は万一の場合、当時の村長、職員は誰々であったと言われることをこれまで以上に覚悟して取り組んで行く必要がある。国や県の借金が膨大なものであってもそれに慣れつことになることなく、我々小さな家族が集まって大きな世帯となったのが村であるという身近な感覚で捉え財政の悪化は自分達に降りかかるということを弁えながら進めていきたい。

